

国や自治体による公共事業の削減や景気の悪化に伴う民間工事の減少を受け、建設業者は深刻な受注減にさらされている。地域の雇用や経済を支える役割を果たしてきた中小の建設業者は生き残れるのか。新たな分野に活路を見いだそうと模索する広島県内の業者の取り組みをみる。

## 広島県内

# 建設業者異業種に活路

## 公共工事減少悪化する景気

土木工事で培った技術や経験を生かし、町内や近隣市町で「何でも屋」を開拓する。依頼内容や作業時間などを基に料金を設定。本業での受注減の影響もあるが、今では「孫・

手・猫の手サービス」と銘打ち、生活支援事業を共同で始めた。

「公共事業削減の流れの中で、会社に体力が残っているうちに何かを始めたかった」と栗栖建設の森田隆司社長(51)。高齢化や人口の流出、耕作放棄地の増加など中山間地域の課題を踏まえ、暮らしを支える事業に注目した。



「孫の手・猫の手サービスで立ち木伐採の打ち合わせをする森田社長(左)」

まわりから空き家や土地情報を求める相談が増えている。家屋修繕や田畠再生などの利用につながればビジネスチャンスが生まれる。

ホームページを通じた情報発信に力を入れ、無料で仲介役を担う。

「待ちの姿勢から攻めの姿勢へ。検索を続けながら現状を開拓したい」。両社の試みは続く。

(胡子洋)

## 伐採・雪かき「何でも」

黄色いボディーの社用車に「わかれ道脇のおたすけ隊」の文字が躍る。草刈りや森林伐採、墓掃除、雪かき、リフター…。北広島町の栗栖建設と瀧田組は100五年、「孫の手・猫の手サービス」と銘打ち、生活支援事業を共同で始めた。

栗栖建設と瀧田組

は2007年まで、事業費は0.7年度決算

で約十四億円。03年

度(約四十一億円)と

た」と言い切る。

栗栖建設の森田社長は「孫・猫」には最近、

田舎暮らしニーズの高

## 解説のページ

北広島町の普通建設事業費は0.7年度決算で約十四億円。03年

度(約四十一億円)とた」と言い切る。

「孫・猫」には最近、

田舎暮らしニーズの高

続く見通しだ。

森田社長は「先手を打つていなければ今はなかつた」と言いつける。

「孫・猫」には最近、

田舎暮らしニーズの高